2019年7月20日　月刊第252号

非核・いしかわ

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の調印は70か国、批准は23か国（7月15日現在）

1面　原水爆禁止国民平和大行進　４人の女性が“通し行進者”　山田太枝
2面　平和行進への思い　岩木治美
県内通し行進の感想　村中香子
3面　黒潮に乗って台湾から日本へ　シュエン
4面　社会保障セミナー・シンポジウム報告
5面　CD「平和の子ら」制作委員会のまとめ　川崎正美
「戦争は教室からやってくる」　安原昭二
6面　公共交通機関の整備を　大滝和康
6面　平和のバトンを渡すひとりに　片岡紀子
7面　バイプレーヤー　じのかずひろ
「会員エッセー＆コラム集」支援金お礼
8面　シリーズ 石川の地域点描　中西　優
絵手紙コーナー　竹味恭子

原水爆禁止　国民平和大行進　富山―広島コース

四人の女性が“通し行進者”

石川県のパワフルな女性たちと平和行進に参加して

北陸コース通し行進者　山田太枝

山田太枝さん

能美市は懸垂幕を今年6月に作成して迎えていただく

石川県一〇日間の平和行進は、和気あいあいとした家族的な雰囲気で行進できたことが何より印象に残った。それは一〇日間通しで行進する方が多くおられ、その方がかもし出すお人柄からくるものかもしれない。例えば多彩な活動で忙しいにもかかわらず、毎日、手作りのおやつを差し入れてくださる末友さん。六月二三日の「沖縄・慰霊の日」の差し入れには更に驚いた。何と、サーターアンダーギーをはじめとして沖縄のお菓子と飲み物の総動員だった。そして「声に出して読んで見て下さい」と彼女から渡されたのが、平和式典で読まれた「本当の幸せ」という小学六年生の詩だった。

経済的に余裕のある土地柄ゆえ保守層の強い県という先入観があったが、独自の平和活動が様々展開されていることにも目を見張った。CD「平和の子ら」や「はだしのゲンをひろめる会」、「非核の政府を求める石川の会」等々、人々に共感を与える工

花鳥風月

今年の七月七日で、核兵器禁止条約の採択から丸二年が経過した。この二年で、核兵器のない世界に向けて動きは加速し、署名国は七〇、批准国は二三を数えるまでになったが、ここに来て停滞の感があるのが悩ましい。断定的なことは言えないが、核保有国・核の傘にある国々による圧力が影響しているとの見方も強い。

▼反核・平和おりづる市民のつどい実行委員会が主催し、七月七日に近江町市場周辺で「ヒバクシャ国際署名　七夕キャンペーン」が実施された。実行委員をはじめ趣旨に賛同する約三〇人が集結し、ヒバクシャ国際署名活動や被爆者本人、医療者、活動家、そして小学生まで幅広いメッセージリレーを行った。また、署名運動の模様は複数のマスコミに取り上げられた（北陸朝日放送のYouTubeページでは動画も公開されているので、ぜひご覧いただきたい）。▼この活動の素晴らしい点は、参加者みなが笑顔で取り組んでいるところだ。核兵器禁止条約の発効が、被爆者にとって、そして次世代を生きる人たちにとって、大きな希望であることの現れであろう。そして単発で終わらず、草の根の運動の継続により、国家と世界を動かし、結実させることが求められている。（O）

夫と努力が並々ならぬもので感心することしきりだった。

今回は、県内通し行進者の岩木さんと村中さん、台湾から来てくれたシュエンさん、通訳・サポーターの新井田さんという元気でパワフルな四人の女性たちと先頭で一緒に行進できたため、本当に楽しい行進となった。

志賀原発や小松自衛隊基地を見学できたことも石川県のもう一つの現実を知る得難い体験だった。

美しい能登の海、おいしい海産物、加賀百万石の風格ある家々や九谷焼の見事さにも目が点になった。

平和行進を担っておられる石川県の皆様に心より感謝申し上げます。

野々市市では粟貴章市長、中村義彦議長が激励挨拶

平和行進への思い

県内通し行進者　岩木治美

岩木治美さん

原水爆禁止の平和行進は長く続いているが、地味で大変な運動だと思った。六二年間も続けている運動、核廃絶を願って一人ひとりが前進している運動である。

平和行進を出迎える自治体の対応も去年より今年、本当に多くの職員が参加していただいた。その時だけでも核廃絶・平和運動を考えてもらえると思う。また一歩でも去年より今年、来年の運動につながればと思う。

行進に参加できない人も「核兵器のない平和で公正な世界」を望んでいると信じている。今年の行進は五歳から九〇歳までの方が参加してくれて、その自治体の考え方、核に対する方針などを話してくれて意味深いものを感じました。

高齢の活動家たちのパワーもすざまじいと思う。二〇～三〇年と毎年同じコースを一歩一歩声を出して歩く。核廃絶の希望を諦めないで歳を越えても歩き続けることが大切で必要と思う気持。一人ではなく皆と同じ気持で歩き続けるすごさ。

私は以前に平和運動に参加したときは動員人員として歩くだけで余り深く考えていなかったように思う。退職して平和運動に参加しようと県内通し行進を二年続けて歩いた。その目的は、自治体訪問の際に政府に対して核兵器禁止条約の調印・批准を求める意見書を上げてほしいと話してきた。今年の行進が終わっても自治体を訪問して話を聞いてもらうことができればと考えている。

今後の行進にはぜひ若い人たちも参加してもらえれば、また平和について核についての研修、勉強会、集いなどが定期的に行なうことができればと思う。自分もこの運動に参加して広げていきたいと思う。

県内通し行進の感想

県内通し行進者　村中香子

村中香子さん

城北病院に就職した三〇数年前から、毎年どこか歩いてきましたが、今回（一部ぬけていますが）初めて通しで行進しました。ここ数年は「定年になったら通し行進を」と言われ続けようやく定年を迎え実行することができました。本当は先頭幕をもつことや、皆さんの前であいさつすることが苦手でためらいはありましたが、行進を終えた今の気持ちは「楽しかった」の一言です。

一緒に先頭を歩いた北陸コースの通し行進者山田さん、県内通し行進の岩木さん、台湾からの参加者シュエンさんのおかげです。大いに刺激を受けました。

これまで歩いたことのないコースや初めて訪れた役所のお出迎え、激励の言葉、民医連事業所での集会でのあいさつなど初めて経験することもたくさんありました。これまでの総決算のつもりでしたが、新たなスタートを迎えた気持ちです。一参加者ではなく先頭幕を持って歩くことでこれまでと違った気持になりました。岩木さんは「病みつきになるよ～」と言いますが・・・。

「核兵器のない世界を」という一致点だけで全国津々浦々でたくさんの

人たちが一斉に歩いている平和行進を改めて見直しました。

初めて参加した一九八〇年代から情勢は大きく変わっています。核兵器禁止条約が国連で採択され、三・一一以降、原発から再生エネルギーへと流れは変わっています。日本政府が核兵器禁止条約に署名し、原発がすべて廃炉となる日を迎え喜び合い歩ける日にむけ、歩いていきたいと思います。

国民平和大行進へのメッセージ
黒潮に乗って台湾から日本に

国際青年リレー行進者
イー・シュエン・ファン

イー・シュエン・ファン（黄懿萱）さん

蘭嶼（らんしょ）は台湾本島の東南に位置する島です。私の名前はシュエンです。蘭嶼に住むタオ族の代表です。私は黒潮に乗って台湾から日本にやってきました。幸いなことに台湾には核兵器はありません。しかし稼働中の原発が三基あります。三六年前、台湾政府は、魚の缶詰工場を建設するという口実のもとに、蘭嶼に核廃棄物貯蔵施設を建設したのです。この核廃棄物は台湾から黒潮を横切って、太平洋に浮かぶ蘭嶼に運ばれてくるのです。その時以来、一九四五年に広島と長崎の人々が核兵器で苦しんだと同じように、タオの人々は核の放射線の脅威にさらされるようになりました。この美しい島からは幸福が消え去っていきました。

日々の生活はそれでも続きます。タオの人々は新たな世代のために一生懸命働いています。しかし、核廃棄物という悪魔を追い払いたいという強い意志が忘れ去られることはありませんでした。毎年、タオ族の反核運動にとって重要な日である二月二〇日が来ると、島民たちは、老いも若きも伝統的なよろいを身に着けます。そして島のすみずみから数千歩の歩みを刻んで、島民全員が核廃棄物貯蔵施設の前に集合して、これに反対するデモを行うのです。三〇年以上が経ちましたが、蘭嶼の中で反核の声が止むことはありません。

黒潮をたどって台湾から日本にやってきた私は、蘭嶼の人々の声をみなさんにお伝えします。アモングボボ、リバングバン、タオ族の人々と同じく、日本の人々もまた、自らの約束を誠実に果たしておられます。数千歩ものあゆみを重ね、数百キロの距離を歩いて、日本の津々浦々から人々は、核兵器の惨禍を経験した広島と長崎を目ざして歩いています。あれから七〇年以上が経ちましたが、平和な世界を目指して戦う人々の声が止んだことはありません。私たちはこれから何年かかろうとも、原子力がこの世界から消え去る日まで歩き続けます。

平和行進に参加されているみなさん、私は、「みなさんは孤立してはいない」というメッセージをお伝えしたいと思います。みなさん全員と合流するために、黒潮は私をここに運んでくれました。私たちを支援する世界中のエネルギーがここに集まっているのです。海が私たちを結びつけてくれて、私たちは今日ここに集っています。アルケミストの本に書かれているように、「あなたが心の底から何かを追い求めるならば、宇宙全体が力を合わせてその目的達成を助けてくれるでしょう。」

（台湾 ラン・アン文化教育基金）

平和行進川柳

岩原一角

ノーモアと海越え響く友がいた
毎日が平和の幟なびかせて
行進が世界に伝え平和の輪
海越えて平和心に歩く友

国民平和大行進の石川県内の行進で、能登コースから参加できるときだけ歩いたのですが、海外から参加の方に頭が下り、思わず句を漏らしました。その中から賛同者のおられた句、私自身が気に入っている句を伝えます。

6/24 福井への引継ぎに向かう非核石川の会・参加者

社会保障セミナー・シンポジウム

旧優生保護法による強制不妊手術は医療者に何を突きつけているのか

大川　義弘

旧優生保護法は違憲としつつも

石川県保険医協会は、六月一六日（日）に県地場産業振興センターにて社会保障セミナーを開催し、六三人が参加しました。

最初に登壇したのは仙台地裁で闘われた旧優生保護法国家賠償請求訴訟の原告・佐藤由美さん（仮名）の義姉・佐藤路子さん（仮名）です。提訴に至るまでの過程、判決に対する批判、一時金支給法の問題点を淡々と話されました。由美さんは知的障害があり、一五歳の時に強制手術を受けさせられました。そのことを結婚後に姑さんから聞かされましたが、とても残念そうに語っていたとのことです。当時、役所の言うことは絶対でした。由美さんのお腹には大きな手術瘢痕（はんこん）があり、理不尽さを一層感じたとのことです。

旧優生保護法は障害のある人を消し去る法律で、反省し、このようなことが二度と起きないようにきちんと謝罪すべきなのに、反省するのは「われわれ」と曖昧にされていることを指摘されました。一審は旧優生保護法は違憲としつつも、国家賠償は認めないというおかしいものでした。控訴して継続して訴えていく決意が示されました。さりげなく、ピンクの腕輪（原告関係者の団結のために製作されたもの）をされているのが印象的でした。

井上英夫さん
（金沢大学名誉教授）

忘却との闘い

次いで、井上英夫さん（金沢大学名誉教授）と藤井克徳さん（きょうされん専務理事、日本障害者協議会代表）の対談です。人権侵害への対決は、忘却との闘いでもあります。こんな風に集まって考えていくのが大事と述べられました。障害のある人の雇用数水増し事件に表れているように、根底にあるのは差別の意識が根強い現状です。「かわいそう」「気の毒だ」ではなく、人権の問題として捉える必要があり、そこには国の責任があります。

最近話題になっているひきこもりや子どもの虐待は個別の原因究明に終わっており、背景要因にも目を向けなければなりません。通底しているのは優性思想であり、人間の価値が経済的効率ではかられる意識です。しかし、このことは私たちにも「内なる優性思想」として存在しています。

藤井克徳さん
（きょうされん専務理事）

優性思想の歴史についても述べられました。T4作戦（注※）は価値なき者を抹殺するもので、ユダヤ人虐殺につながっていきます。この作戦に医師は加担しましたが、やりたかったことは人体実験であることなどが語られました。これは七三一部隊、ハンセン病「強制絶対終生隔離収容政策」ともつながるものです。

約二万五千人に手術実施

旧優生保護法のもと、「不良なる子孫の出現を防止する」として、同意あり一万六四七五人、同意なし八五一八人に手術が行われました（この数字を藤井さんは完璧に記憶され、その他の第〇条などもそらんじていて驚嘆しました）。仙台地裁の判決について、藤井さんは憲法違反なのに賠償は認めないという論調で憲法違反が軽く扱われていると述べると、井上さんは「肩すかし判決」「責任転嫁判決」「ばかやろう判決」と明解に解説されました。優生保護法の乗り越え方を誤ると、障害のある人の人権保障の基準値が下がる危険性も指摘されました。

何をよりどころにするかという点について、「障害者の権利に関する条約」のいくつかの条文が紹介され、特に第一七条「全ての障害者は、他の者との平等を基礎として、その心身がそのままの状態で尊重される権利を有する」を強調されました。一時間半の対談はあっという間に終わり、休憩の後、打出喜義さん（婦人科医師）の話に移りました。

医師の「公益と善意」

打出さんからは強制不妊手術に医師がどう関わっていたか、不妊手術が実際どう行われるのかが紹介されました。次いで国立大学附属病院医師が三人の障害のある人から正常子宮を摘出した事例をめぐり、医師への質問とその返答が詳細に示され、会場からもどよめきが起きました。医師は自分たちの行っていることが「公益と善意」にかなっていると思っているわけですが、「地獄への道は、善意の小石で敷き詰められている」という警句を最後に示されました。

質疑応答では、民主主義の問題、判決要旨について、これから運動をどう作っていくのか、医師の責任についての質問があり、演者からコメントが述べられました。このセミナーが今後の人権保障の意識の拡大につながっていく出発点になるように強く感じました。

（石川県保険医協会副会長）

【注記】

T4作戦とはナチス・ドイツ時代に優性学思想に基づき行われた障害者の安楽死政策。虐殺は第二次世界大戦終結まで行われ、約二〇万人が犠牲になったとされる。

非核・平和のひろば

石川発・被爆者の想いを歌い継ごう CD「平和の子ら」制作委員会のまとめ

川崎正美

この場をお借りし、CD「平和の子ら」制作と普及の報告をさせていただいてきましたが、いよいよ最終回です。

当初の計画通り、県内の全小学校に、CDをお届けすることができました。多くの小学校で、この夏に平和集会が持たれます。歌「平和の子ら」は、これまでにも加賀市、小松市などの小学校で歌われてきましたが、今年はさらに多くの地域、小学校で歌われることを切に願っています。

六月に、東京で日本被団協の総会が開催され、制作委員会の代表、そして石川県原爆被災者友の会の会長である西本多美子さんが参加されて、CD制作の取り組みを報告されました。各地域の被爆者団体は、高齢化のため活動を停止しているところも出てきているそうですが、この取り組みは、被爆者と市民がつながり合い、今後の反核・平和運動をつくる典型、そして希望として受け止められたようです。

その証明でしょうか、全国各地の被爆者（団体）のみなさんからたくさんの注文をいただきました。さらに、総会での西本さんの発言が目にとまり、全国紙にも取り組みが紹介されましたので、南は屋久島、北は北海道まで各地から注文が入りました。「いつかは全国版の歌にしたい」と言っておられた西本さんの願いの実現に向けて少し前進したようです。

また、小学校の平和集会や、親子平和イベントへ歌いに来てほしいという依頼も入ってきました。西本さんの語りとセットのコンサートも企画されました。嬉しい限りです。

この歌が子どもたちと「平和の子ら」像をつなぐ架け橋となること、子どもたちが核のない平和の未来へ運ぶ希望の架け橋となることを願ってやみません。

（CD「平和の子ら」制作委員会事務局長）

「戦争は教室からやってくる」そんな時代を繰り返してはなりません！私たちの願いをこめて、よりよい教科書を！

安原昭二

ぼくたちはロボットではない！

来年度、小学校全教科の教科書が変わります。文科省検定でいったいどんな内容になるのでしょう。英語科も新設して全体で一・四倍のページ数に膨れ上がりました。その中には、もともと上学年で習う内容を乱暴に下学年へと入り込ませた単元もあります。さらに「主体的で対話的な学び」として授業の方法まで口出しました。

教科書採択に対する申入れ（2018年）

子どもたちも先生も同じ方法で同じ考えしか持たせないやり方です。これではロボットです。授業や理解の仕方は、多様にあっていいはずです。あげくに、どんな子にも「最後まで、やり通す」ことが求められるため、学校によっては「がまん玉をみがきなさい」という言葉が飛び交っています。

どの教科も国家色濃く！

主な教科の特徴を紹介します。社会科は安倍政権の考えを色濃くした内容が目立ちます。竹島について日本の「領土」では誤解する表現だとして「固有の領土だ」と検定で加筆させられました。「領土」と「固有の領土」の二つの表現は小学生には理解できません。また、「憲法の改正手続き」など改憲を勧めるような踏み込んだ内容もみられます。さらに歴史学習の前に憲法を学ぶように変えました。これでは日本国憲法の背景を学べず、うわべの学習になるおそれがあります。

算数では「全体的にみて子どもの発達段階を考慮せず、数学の系統を小学校から入れて組まれているように思う。全国学力テストで正答率が低い内容（分数や倍・割合など）を早くから繰り返し学習させようとしている。一部がわかればよいというふうに感じる」と長年、数学教育に実績をもつ山野下とよ子さん（元小学校教員）が、ばっさり指摘しています。

理科では、「どんなことに役立ちますか」と振り返りをさせ、科学的な学びから遠ざけています。新設の英語にいたっては七〇〇もの単語が子どもたちを苦しめることになります。そして、どの教科においても道徳という「ふりかけ」をまぶしました。

子どもたちの未来を平和で希望あるものに

今、学校は「どの学年も、どの教室も同じ指導を」というスタンダードが横行しています。教科書を丁寧に使って授業しているかチェックが入るのです。それほど教科書に重きをおいて先生たちを縛っています。

だからこそ、です。より良い教科書を子どもたちに届けましょう！。来年、中学校教科書採択（道徳をのぞく）が行われます。周知のように以前、加賀、小松、金沢では戦争を美化し史実を曲げた育鵬社歴史教科書（加賀、小松は公民教科書も育鵬社）を採択しました。

「戦争は教室からやってくる」の戦前の教訓から学び、私たちにできることは多様にあるはずです。

（いしかわ県民教育文化センター所長）

非核石川の会リレーエッセー

公共交通機関の整備を

大滝和康

車は便利である。好きな時間に、好きな場所に移動できる。しかも、自分の好きな空間ごと移動することが可能だ。

一八歳で車の免許を取って四四年。振り返ってみると、これまでに一一台の車を乗り継いできた。最初に買った車はトヨタのカリーナだった。結局、トヨタ車五台、日産車三台、ダイハツ二台、三菱一台。四年に一台の割合で車を変えて来たことになる。ちなみに現在は、トヨタのアクア七年目。この車が一番長く乗っている。ハイブリッドが好きなわけでないが、「なぜ乗っているのか？」と聞かれたら、「燃費が良いから」と答えるであろう。同じ車に長く乗った方が安く付くと思われる。

最近、高齢者の車の事故が頻発している。道路の逆送や暴走、ブレーキとアクセルの踏み間違えなどなど。

高齢になるとどうしても運動能力が低下し、判断力も鈍って来る。「危ない」と、自覚症状を感じたら運転免許の返納も考える必要があると思います。人それぞれ個人差があるので一概に「何歳で免許返納」とは行かないと思いますが、大きな事故を起こす前に決断しなければならないと考えます。

車に頼る生活が染みついて、歩くことが少なくなりました。最近は意識的に歩くようにしています。金沢市内のちょっとした移動は「ふらっとバス」を利用するようにしています。駐車料金よりもバス料金の方が安いことも分かりました。

自家用車を手放しても、困らないようなシステム。公共交通機関の整備が求められます。金沢市の場合で見ると、中心部は比較的バスの便が良いが、郊外地域は大きな問題があります。病院に行くにも、買物するにも車が無いと不便でしょうがない。高齢になっても、なかなか車を手放すことができない。変わりの交通手段が無いからです。そう毎日毎日タクシーを使うわけにもいかない。

コミュニティーバスなどの公共交通機関網の整備が急がれます。

平和のバトンを渡すひとりに

片岡紀子

私は、金沢市の自衛隊野田駐屯地の近くで育ちました。家の前を自衛隊員が隊列を組んで通りました。自衛隊の戦車も毎日のように通過し、山の方に

行けば訓練の大きな音もします。そんな環境でしたが、自衛隊のことをあまり深く考えたことがありませんでした。

自分の子どもの未来を考えるようになって初めて、自衛隊のことを気にするようになりました。新日本婦人の会でいろいろ学んできて、先輩の方々が長年の要請行動など、平和のバトンをつないできたことを実感しました。そして、自分もバトンを渡す一人にならなければと思いました。

自衛官募集のＤＭが高校三年生に毎年郵送されます。私の娘にも郵送された年、自衛隊石川協力本部に申し入れ懇談しました。名簿は職員が手書きで写してきているとのことでした。自衛官募集を税金で郵送すること自体、やめてほしいことですが、今年六月の金沢市議会で山野市長が「自衛官募集に協力するため、自衛隊石川協力本部からの求めがあれば若者の個人情報を、電子媒体で提供する」と表明しました。

新婦人は、自衛隊への名簿提供に抗議を申し入れました。九条改憲で自衛隊を海外で戦争できるようにしようとしている安倍政権のもと、子どもたちに自衛隊への道を広げるわけにはいきません。テレビや映画、災害救助など、自衛隊のアピールが過熱しています。迷彩服での通勤や子供の迎えなど、生活の中に自然に入ってきています。海外で自衛隊員が殺し殺されることがないよう、平和のバトンを、私も次の世代に渡していけるように行動していきたいと思います。

詩人会議かなざわ「独標」より

バイプレーヤー

じの　かずひろ

この四月で八十三歳になる
父は三十三で戦病死した
弟は六十代後半で
妻子を残して急死した
三・一一の前年に
冠状動脈瘤で死にかけた私
それらを顧みれば
十二分に生き得たのだ
まだ時間があるのなら
どう生きようかと
自問自答していたそのとき
＝世の中をダメにするのは老人の跋扈。時が来たら、誇りをもって脇にどくの＝
樹木希林の
１２０の遺言が落雷したのだ
今私は跋扈する
ダメ老人の一人に類するか
時はすでに到来しているのに
誇りをもつて脇へ寄り
子や孫の世代を
後押しする老人にならなければ
生涯脇役を貫き
見事な生き様を体現した
彼女のように

編集室から

◎国民平和大行進ご苦労様でした。非核石川の会も参加する平和行進石川県実行委員会が五月に各自治体を事前訪問した際、「ぜひ核兵器禁止条約にふれたメッセージをお願いしたい」と依頼したところ、輪島市長、七尾市長、白山市長が応えてくださいました。戦争被爆国の日本政府が核兵器禁止条約に調印、批准するよう自治体と共に声を上げていきましょう。（か）

◎安倍首相は七月九日、ハンセン病元患者家族の訴えを認めて国に損害賠償を命じた熊本地裁判決について控訴しないことを表明した。これで家族五四一人へ計三億七六〇〇万円の賠償を命じた判決が確定した。本会の井上英夫代表世話人は、「今回の熊本地裁判決を教訓にあらゆる差別を根絶するきっかけにすること。国が責任を果たすためには、検証会議をつくり、家族からも十分に意見を聞き、納得できる形で立法措置を講ずるべき」（日経新聞七月一〇日）と指摘している。（な）

エッセー＆コラム・第２集 出版制作協賛募金のお礼と報告

「エッセー＆コラム・第２集」の発行にあたり制作費の協賛募金をお願いしましたところ、七月一一日現在六六人様から協賛募金と冊子普及販売金七万二〇〇〇円をお寄せいただきました。

心から感謝申し上げご報告をいたします。

八月七日～九日、長崎市で開催されます原水爆禁止世界大会代表派遣募金もよろしくお願いいたします。

非核・石川の会常任世話人会

シリーズ石川の地域点描 34

フォトグラファー　中西 優

飛び交う蛍の光＝金沢市キゴ山

金沢市キゴ山にて

蛍の鑑賞や撮影についてマナー違反がよく聞かれます。自然と触れ合うことは、大変なことだと再認識しています。蛍でいえば、光に反応しやすく、車のライトや懐中電灯、スマートフォンも避けるべきでしょう。虫よけも要注意といわれます。昆虫を理解しマナーを守って観察しましょう。

（追記）

ゲンジボタルは体長15～18㎜で五月～六月ごろに発生。ヘイケボタルは体長8～12㎜で六月～八月ごろに発生します。光り方はゲンジボタルに比べて「短く、また弱い」。今ごろ観る蛍はヘイケボタルでしょう。（編集部）

絵手紙コーナー

金沢医療生協絵手紙班

竹味恭子

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	内　容	会場
7	24	水	12:50	第98回怒りの昼デモ	金沢市香林坊・四高記念公園教育会館入口
	30	火	18:30	原水爆禁止世界大会石川県代表学習と結団式	金沢市京町・石川勤労者医療協会3階ホール
8	2日（金）～5日（月）			ハルビン731部隊史跡ツアー・侵華日軍731部隊罪症陳列館・他	詳細・・連絡先　090－1392－8323
	2	金	10:00	平和のパネル展（～16日）	金沢市鞍月・石川県庁19階展望ロビー
	3	土	13:30	講演「働き方改革の嘘」 久原穏さん	金沢市鞍月・県地場産業センター新館第12研究室
	6	火	8:15	広島の日	
	6	10:00～16:00		原爆写真展と署名行動　どなたでも・いつでも都合の良い時に	金沢市青草町・近江町市場入口前
	7	水	12:50	第99回怒りの昼デモ	金沢市香林坊・四高記念公園教育会館入口
	7日（水）～9日（金）			原水爆禁止2019年世界大会in長崎	長崎市・市内各地
	9	金	11:02	長崎の日	
	15	木		終戦の日	
	15	木	14:00	不戦の集い2019年夏「金沢市平和都市宣言と現状について」	金沢市・金沢駅もてなしドーム地下広場
	21	水	12:50	第100回怒りの昼デモ	金沢市香林坊・四高記念公園教育会館入口
	24日（土）～25日（日）			日本母親大会in静岡	静岡県焼津市・静岡市
	29日（木）～31日（土）			中央社会保障学校inいしかわ	金沢市香林坊・石川県教育会館など
				8/29（木）13時半～17時・学習講演・小森陽一さんと井上英夫さんが語ります。石川県教育会館3 階ホール	
	30	金	18:30	原水爆禁止世界大会石川県代表団報告会	金沢市京町・石川勤労者医療協会3階ホール
9	6	金	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・エムザ前
	7	土	13:30	治安維持法国家賠償要求同盟石川県本部総会	金沢市北安江・金沢勤労者プラザ
	8	日	11:00	9条の会北陸ブロック交流会　講演　小澤隆一さん	金沢市北安江・金沢勤労者プラザ
	15	日	13:00	石川のうたごえ交流会	白山市・松任コンサートホール（松任図書館隣り）
	23	月・休	10:30	国連・核廃絶デー／反核医師の会　ピースな楽校（小学生対象）	金沢市香林坊・石川県教育会館2階和室
	23	月・休	13:30	国連・核廃絶デー／アーサー・ビナード講演会	金沢市香林坊・石川県教育会館3階ホール
10	5	土	14:00	金沢紫金草合唱団19周年記念コンサート　合唱と語り 語り・志田弘子さん「染にこめたいのちの想い」	七尾市小丸山台・石川県七尾美術館アートホール
	9	水	12:30	核兵器廃絶6・9署名行動	金沢市武蔵町・エムザ前

＊祝日は休日とします　＊毎週金曜日 18:30どいね原発アピール行動 金沢駅兼六園口　＊毎月15日石川県沖縄連帯デー 12:00

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中　年会費 2,000円　ゆうちょ銀行口座　00760－0－15689